様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２４ 日現在

機関番号：２２３０４
研究種目：若手研究
研究期間：2018～2023
課題番号：１８Ｋ１７４５４

研究課題名（和文）在宅療養児の母親と訪問看護師のニーズを反映したNICU退院支援プログラムの開発

研究課題名（英文）Development of a NICU discharge support program reflecting the needs of mothers of homebound children and visiting nurses

研究代表者
久保　仁美（Kubo, Hitomi）

群馬県立県民健康科学大学・看護学部・講師

研究者番号：７０８１３１８７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,000,000円

研究成果の概要（和文）：NICU退院後に地域で生活する児の母親と児のケアにあたる訪問看護師へのインタビュー調査をとおして、NICUにおける退院支援に対するニーズを明らかにした。訪問看護師５名を対象とし、訪問看護師がNICUの退院準備期において実践した退院支援内容を抽出した結果、「両親の医療的ケアの獲得状況に関する情報収集」「発達を促すケアの検討」「家族の子育て観に沿う」「かかりつけ医との情報共有」「後方支援病院との連携」「関係構築の第一歩としてコミュニケーションを図る」「医療機器の安全な取り扱い操作の習得」「住宅環境や在宅療養に合致するケアの検討」「養育者および家族関係について知る機会を得る」が明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の結果は、NICUにおける退院支援内容の質向上を目指す際の資料となる可能性がある。NICUから自宅への退院時に、引き続き日常的に医療や自宅での痰の吸引や栄養の注入が必要な子どもと家族にとって、療養の場が変化しても在宅で安全且つNICU退院前の準備と乖離しない生活ができるよう、NICUにおける支援が必要となる。対象者に最も近い医療専門職であるNICU等看護師が退院に向けての支援を実践する際、退院後訪問看護師が必要とした子どもと家族の支援を認識することは、退院前の子どもと家族の退院後の生活の質向上に寄与できる可能性がある。

研究成果の概要（英文）：This investigation aimed to clarify the discharge support-related needs in NICU through an interview survey of mothers of children living in community after discharge from the NICU and of home-visit nurses providing care in community. Part of this study involved interviewing five home-visit nurses regarding the content of discharge support that they provided during the preparation period. The results included “collecting information on parents’status of obtaining skills to provide medical care” “examination of care to promote development” “following the family’s views” “sharing information with the family doctor” “communication for the relationship” “learning how to safely handle medical equipment” “examination of care suited to a home environment and home care” and “having the opportunity to learn about the caregivers and family relationships.” These findings will form the basis for creating a discharge support program.

研究分野：小児看護学

キーワード：NICU　退院支援　地域移行

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

「在宅療養児の母親と訪問看護師のニーズを反映した NICU 退院支援プログラムの開発」
研究成果報告

１．研究開始当初の背景

我が国における極低出生体重児（1,000ｇ～1,499g）、超低出生体重児（1,000ｇ未満）の出生数は増加し、出生数全体の 9.4%を占めている（厚生労働省，2018）。このため、新生児集中治療室（以下、NICU）における治療を必要とし、退院後、地域で生活する児が増加した。NICU における退院支援の重要性は、すでに広く認識され（大脇，木下，内田，2017）ている。

2013 年には小児等在宅医療連携拠点事業が開始されるとともに診療報酬が改定され、現在、NICU からの地域移行の推進や退院支援の質向上が求められている。さらに、日本看護協会は 2016 年度診療報酬改定に関して、NICU や病棟の看護師が退院支援に効果的にかかわることができるよう、研修などを通じて、「生活を支える」視点をもち在宅での療養上の指導を行うことができる看護師の育成を一層進め、治療から療養まで切れ目のない、よりよいケアを提供できるような体制整備に貢献していくことの必要性を提言している（日本看護協会，2016）。

また、2021 年には医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律が施行され、近年 10 年間において NICU や病棟の看護師が実践している退院支援は多様化していることが予想されるため、NICU と地域の看護職の協働がより一層求められている。

２．研究の目的

本研究の目的は、訪問看護師へのインタビュー調査において、NICU 退院時や在宅療養開始時を想起してもらい、NICU での退院支援に対するニーズや在宅療養を開始した直後の訪問において困難と感じたことを明らかにするとともに、明らかとなった内容から、これらを充足する具体的な退院支援内容を検討し、NICU 看護師に対する退院支援プログラムを開発することである。

本研究は、NICU 退院後在宅で生活する低出生体重児が増加している社会的背景を考慮し、NICU からの在宅移行に焦点をあて、現代の社会的ニーズに合致した退院支援プログラムを開発することが特徴である。さらに、退院支援プログラム開発にあたり、NICU 退院児をもつ母親と訪問看護師へのインタビュー調査を基盤とすることで、NICU 看護師にとって、ケア対象者のニーズと、同じ看護職として退院前から連携を必要とする対象である異なる 2 者からのニーズを把握することで、より包括的な退院支援内容を検討することができるものであると考える。

３．研究の方法

本研究は NICU 退院後 2 年以内の児をもつ母親と、当該児を受け持つ訪問看護師を対象に、NICU 退院前後を想起してもらい、NICU における退院支援に望むことや在宅生活を開始した直後に困ったこと等についてインタビュー調査を実施する。インタビュー内容は、Belerson.B の内容分析の手法を用いて分析を行い、カテゴリーを形成する。さらに、形成されたカテゴリーを充足するための看護支援を検討し、NICU 看護師が活用できる退院支援プログラムを開発する。

本研究開始当初は、NICU 退院後２年以内の児をもつ母親も対象者に含めることとしたが、感染症流行の影響により調査不可となった期間があるとともに、NICU 退院後の児を訪問看護ステーションで継続的に看護している事例が少なく対象者の選定に苦慮した。本報告では、訪問看護師を対象とした調査について報告する。

４．研究成果

（１）NICU 入院児と家族に対する看護師の退院支援内容

2019 年に NICU 看護師が実際にどのような退院支援を実践しているか文献検討により明らかにした（表 1）。結果、分析対象文献は 16 件であった。文献の掲載数の推移は、2014 年を除いて毎年 2 件～6 件あり 2016 年が 6 件と最も多かった。また、地域の受け皿である訪問看護師を対象とした研究が 1 件のみであった。「NICU 入院児と家族に対する看護師の退院支援内容」についての内容分析を行ったところ【児と家族の自宅での生活を想定した直接的な支援】、【地域移行に向けた多職種の調整と協働】、【家族中心のケアの理念に基づく態度や実践】の 3 コアカテゴリが形成された。さらに、今後は、地域の特性を活かした、院内と地域をつなぐシステムの検討や普及が必要であるとともに、受け皿である地域や訪問看護師のニーズを踏まえた退院調整のシステムづくりの必要性が示唆された。

（２）退院後の子どもと家族の生活を支援する訪問看護師の退院時の関わり

令和３～４年度に、NICU 退院後に地域で生活する児の母親と児のケアにあたる訪問看護師へのインタビュー調査を行った。調査の目的は、NICU における退院支援に対するニーズを明らかにすることである。訪問看護師５名を対象とし、研究の問いである「NICU の退院準備期において訪問看護師が実践した支援内容」を抽出し、質的記述的に分析した。

結果、78 記録単位から 46 コードが形成された。意味内容を変えないよう抽象化の過程を経て、訪問看護師が NICU 退院準備期に実践した支援内容は【両親の医療的ケアの獲得状況に関する情報収集】【発達を促すケアの検討】【家族の子育て観に沿う】【かかりつけ医との情報共有】【後方支援病院との連携】【関係構築の第一歩としてコミュニケーションを図る】【医療機器の安全な取り扱い操作の習得】【住宅環境や在宅療養に合致するケアの検討】【養育者および家族関係について知る機会を得る】であった。業務の調整や対象者のリクルートに難渋し、対面での面接方法の制限等、研究方法の検討を必要としたため、研究の問いに対する回答が飽和化していないことが示唆される。研究期間終了後は、リクルート方法をスノーボールサンプリング方式に変更し、調査を続けることとする。

表１　NICU 入院児と家族に対する看護師の退院支援内容

コアカテゴリ	カテゴリ	サブカテゴリ（数字は文献番号）	
児と家族の自宅での生活を想定した直接的な支援（63.8%；134 記録単位）	児が自宅で生活するために必要なケアの提案や指導	医療的ケアの指導	1),6),9),12),14),16)
		基本的な育児指導	1),2),9),11)
		自宅を想定したケアの提案・実施	3),4),11)
		媒体を利用した指導	1),9)
		母乳トラブルへの対応	9)
	自宅療養環境の確認	退院前自宅訪問による療養環境の確認	4),11)
		自宅環境の確認	2),4),11)
	家族のアセスメント	家族の様子を観察	1),2),16)
		育児支援者の有無や役割についてのアセスメント	4),9),11),16)
		母親の育児能力のアセスメント	2)
	家族への情報提供	家族への情報提供	1),4),6),8),11),14)
		ピアサポートとの交流の場の提供	6),9),16)
	入院中に児と家族がともに過ごすための調整	面会時間での調整	11)
		長時間面会	2),9),11)
		母児同室	1),11)
	母と児の愛着形成の支援	母と児の愛着形成の支援	1),16)
		虐待を防止する支援	1)
	困難事例への退院条件の提示	困難事例への退院条件の提示	2)
地域移行に向けた多職種の調整と協働（21.4%；45 記録単位）	院内の退院支援チームとしての協働	院内多職種との情報共有や協働	1),4),8),16)
		院内多職種とのカンファレンスの実施	2),3),6),8)
		同じ目標を共有すること	1),6)
		院内のシステム化された支援	1),6)
		退院支援チームを作ること	1),6)
	院外の多職種との調整	訪問看護師との退院前訪問に関する調整	6)
		訪問看護師との調整	4),6),9)
		保健師への退院後家庭訪問の依頼・調整	2),11)
		保健師への情報提供	1),2),11)
		業者と家族の仲介	4)
		試験外出・外泊の調整	1),4)
家族中心のケアの理念に基づく態度や実践（14.8%；31 記録単位）	家族との十分なコミュニケーションや情報共有	母親の精神的サポート	2),11),14),16)
		家族との情報共有	6),9),11)
		家族間の調整	8),9)
		出生前訪問	8)
	家族と専門職の協働	家族との協働	1),4),8)
		児や家族の個別性に合わせた指導	1),14)
		在宅療養に合わせた医療的ケアの時間調整	4)
	家族の決定を尊重する	家族の決定を尊重する	14),16)
	ケアや意思決定場面への家族の参画	ケアや意思決定場面への家族の参画	2),8),9),14)

久保仁美,岡本奈々子,阿久澤智恵子 他.NICU 入院児と家族に対する看護師の退院支援内容に関する文献検討.2014 年から 2018 年の国内文献に焦点をあてて.日本小児看護学会誌 30,72-80,2021.

（３）NICU 退院支援プログラムの開発に向けた課題

退院支援プログラム開発にあたり、NICU 退院児をもつ母親と訪問看護師への 2 者からのインタビュー調査を基盤とすることにより、NICU 看護師にとって、ケア対象者のニーズと地域の看護職のニーズが把握でき、より包括的な退院支援内容を検討することができると考えられる。感染症等の影響により、NICU 退院時の家族へのリクルートが困難であったため、引き続きデータ収集を行うとともに既存のパスである「NICU/GCU における小児在宅移行支援パスと教育プログラム（公益社団法人日本看護協会,2019）」との照合を行い、対象となる子どもと家族の最も身近な医療専門職として子どもと家族および訪問看護師のニーズを充足した支援が可能となる指標を作成する。また、近年、NICU から小児病棟等に転棟し退院にむけて支援を実践するケースが多い。このため、対象者の選定には、NICU または小児病棟等から退院した児を訪問した看護師とし、引き続きデータ収集を進めることとする。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 久保仁美,岡本奈々子,阿久澤智恵子,山崎（今井）彩,柏瀬淳,金泉志保美	４．巻 30
２．論文標題 NICU入院児と家族に対する看護師の退院支援内容に関する文献検討 2014年から2018年の国内文献に焦点をあてて	５．発行年 2021年
３．雑誌名 日本小児看護学会誌	６．最初と最後の頁 72-80
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 久保仁美，松崎奈々子，柏瀬淳，金泉志保美
２．発表標題 NICU入院時と家族に対する看護師の退院支援内容に関する文献検討2014年から2018年の国内文献に焦点をあてて
３．学会等名 日本小児看護学会第29回学術集会
４．発表年 2019年

１．発表者名 久保仁美，松崎奈々子，柏瀬淳，金泉志保美
２．発表標題 NICU入院児と家族に対する看護師の退院支援内容に関する文献検討　2014年から2018年の国内文献に焦点をあてて
３．学会等名 日本小児看護学会第29回学術集会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関